

大学院教育改革支援プログラム

日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成

「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」は、昨年度、「大学院教育改革支援プログラム」(文部科学省)に採択された、本学大学院の比較社会文化学専攻の教育プログラムです。

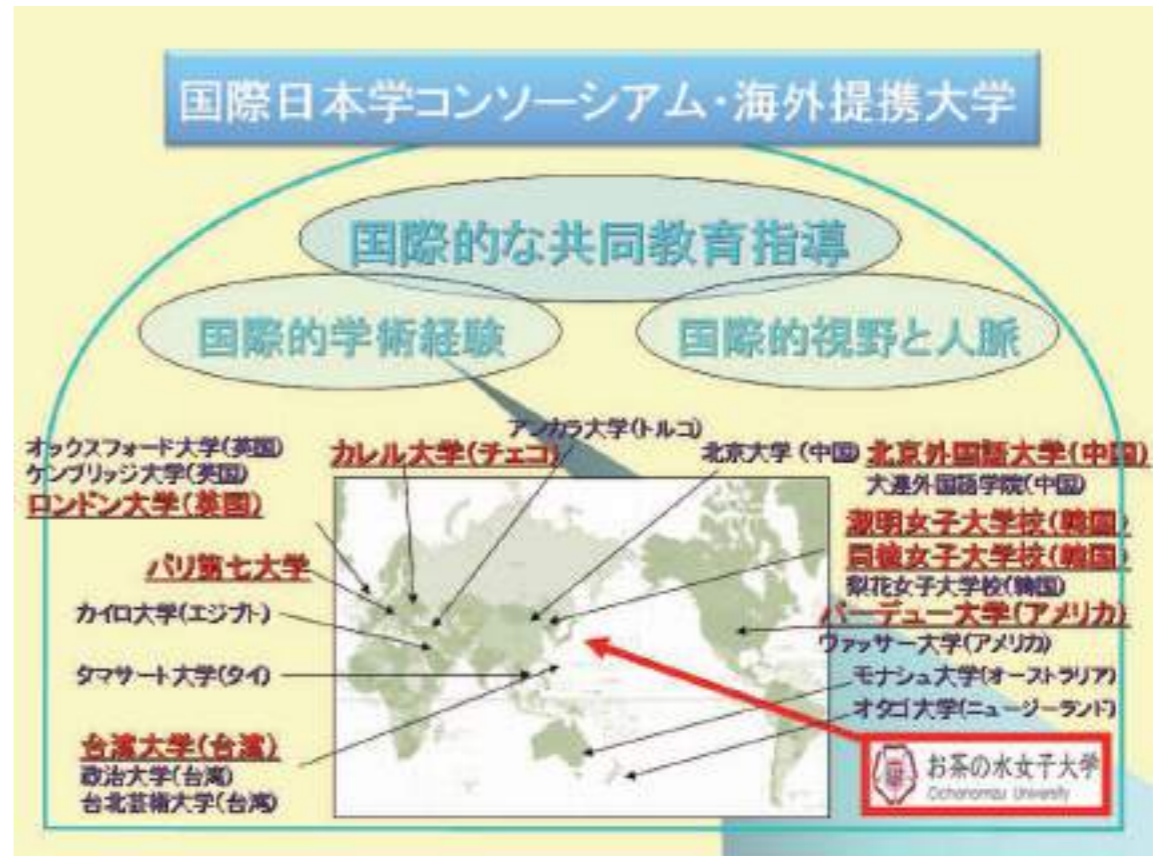


国際的なコミュニケーション力の育成

今日の私達が暮らしている社会は、様々な面で、急速にグローバル化しつつあります。こうした時代にあって、社会や文化に貢献する稔り豊かな仕事を成し遂げるためには、国際的なコミュニケーション能力が不可欠です。

数年前、人文系の研究者達と話していたとき、「日本には人文系の高度な研究成果があるのに、それが海外ではあまり知られていない」ということが話題になりました。

理系の研究分野では、数式や化学式といった一種の「普遍言語」を用いることができますが、一方、文系の研究は、全面的に「自然言語」(日本語や英語、等々)に依存しており、したがって、その研究成果を発信するにも、又、理解するにも、高度に洗練された言語能力・プレゼンテーション能力が必要になります。それだけに、研究成果が「言葉(文化)の壁」を越えて伝わり難いという現実があるのです。



3つの教育プログラム

本学大学院には、人文系の高度で専門的な研究・教育基盤が整っていますが、そこで学びつつ、同時に、充分な国際的コミュニケーション能力も獲得できるようにしようというのが、この教育プログラムの基本的な目的です。このプログラムは、①「国際的な現場での教育」、②「情報伝達スキルの練磨」、③「日本文化についての理解」という、3つの柱から成っています。

まず①の「国際的な現場での教育」については、海外の提携校などで模擬授業実習を行なう「海外インターンシップ」、国際的な水準に合う学位論文執筆に向けて海外の研究者達と専門的な議論を行なう「海外アカデミック・ディスカッション」が、今年度から本格的な実施に移されます。又、既に昨年度から実施されている様々な国際教育——海外の提携校との「国際共同ゼミ」、「国際日本学コンソーシアム」、そして、学生個々の研究に必要な調査・取材を行なう「海外調査研究」——は、今年度も引き続き実施されます。こうしたプログラムの魅力は、本学で学ぶことで、居ながらにして海外留学によ

る国際経験に匹敵するものを得られるという点にあります。

②の「情報伝達スキルの練磨」としては、上記①のプログラムと連動して、既に、外国語によるプレゼンテーション能力を磨くための科目が開講されています。それに加えて、今年度からは、研究成果の電子メディアによる発信のノウハウを学ぶ実習(本学に蓄積されている国際日本学の研究成果を用いて「日本学研究コーパス」を作成する実習)も本格的な実施に移され、その実習の成果は、本学のホームページ内の「Tea Pot」で公開されます。

さて、国際的な場で活動するとき(それが文化的な活動分野であれば尚更)、私達はしばしば、自らの研究分野の如何に係わらず、日本の文化について語り、紹介する役割を期待されます。グローバル社会であっても、否、そうした社会であるからこそ、文化的な出自が大切にされ、それに関心が払われる傾向があります。そうした状況を受けて、教育プログラムの第3の柱、「日本文化についての理解」が設けられました。

このプログラムの一環として、今

年度から、副専攻「日本文化論」が開設されます。これは、日本文化の多様な諸面(思想、歴史、文学、美術、服飾、舞踊、音楽、等々)についての20の科目から成る副専攻科目群で、指定の単位数を履修すると、副専攻修了証が与えられます。

多様な価値観の発信

今日の社会のグローバル化は、ともすれば、多様であってよいはずの諸文化を均一化し、価値観の頑なな一元化を招く危険性を秘めています。そうした中で、伝統的に非一元論的な思想に培われ、多様性を包含してきた日本の文化を理解し、それを発信することは、世界をより好い方向へと導く助けとなるでしょう。国際的コミュニケーション能力とは、単に自分個人の主張のための道具ではなく、社会を創る力であるべきだ。この教育プログラムは、そうした信念に基づいているのです。

(近藤 譲 大学院人間文化創成科学研究科
基幹部門文化科学系教授)

大学院教育改革支援プログラム
日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成